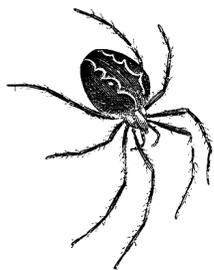


# 遊絲

No. \_\_\_\_\_

日本蜘蛛学会



## トピックス 日本蜘蛛学会 第33回大会(沖縄 県)が開催された

### 第33回蜘蛛学会大会の感想

第33回蜘蛛学会大会は、2001年8月25日(土)と26日(日)の二日間にわたって、沖縄県のメルパルクにおいて開催された。秋の気配漂う鳥取県の氷ノ山から那覇空港に降り立つ

と、そこはまだまだ夏真っ盛りだった。「沖縄だー、ちゅらさんだー」とこれから始まる大会と採集に胸をときめかせながら沖縄大会会場へ向かった。

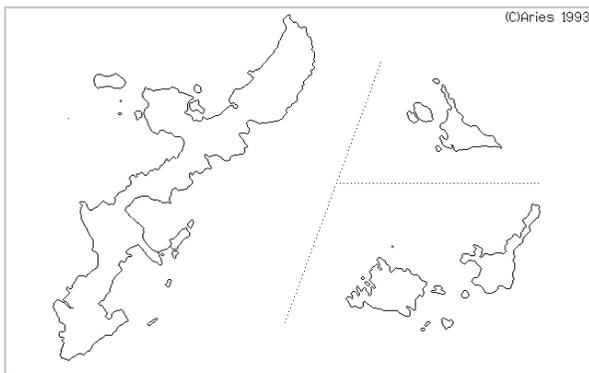
会場についてまず目を奪われたのは会場入り口に展示してあった仲程悦子氏の

「クモの巣アート」だった。クモが作った網がそのままの形で紙に貼ってある。ウズグモの隠れ帯の渦巻きがとてもかわいかった。平たい円網ならともかく、立体的なシート網などもきれいに紙に貼られており、驚いた。中には網の住人のものと思われる抜け殻や脚がそのままくっついてある作品もあり、興味深かった。姿が気

持ち悪いとか、網に引っかかるとうっとおしいなどと、嫌われがちなクモだが仲程氏のクモの巣アートを見ればクモのことを見直す人が増えるかもしれない。(そして蜘蛛学会の会員も増えるかもしれない。)

今回の学会で私にとって一番衝撃的だったのは、我が師匠以外のザトウムシ研究者に初めて会ったことだ。ザトウムシの交配実験などをしながら、本当はもっとザトウムシの普段の生活、日周運動や季節による行動の変化を知っておいた方がいいんだろうなあ、そのためにはザトウムシを一日中追っ

かけ回す調査をしなければいけないなあと思いつつ大変そうなので二の足を踏んでいた。ところが沖縄には、ハブと野犬の恐怖にうち勝ち一晩中ヤンバルの森で一人、ギンボシザトウム



沖縄県

シを追っかけ回した人がいた。その勇気や労力を思うと研究方法を聞いただけで尊敬してしまった。ギンボシザトウムシが脚と脚が重なるぐらいの距離で作る「グループ」はヒコナミザトウムシの交尾後ガードによく似ている。ギンボシザトウムシの交尾行動にも興味をわいてきた。これは、両種の比較のためにも是非ヒコナミザ

トウムシを追っかけ回してみなくてはいけない  
と思った。

私の場合、勉強不足で学会発表を聞くときは  
一生懸命頭を働かせないとわからないか、頑張  
っても理解できないことが多い。しかし、今回  
の渡辺 健氏の「アシナガグモとオオシロカネ  
グモの種間相互作用について」の発表はわかり  
やすく、おもしろかった。渡辺氏の発表がうま  
かったこともあるだろうが、研究方法がシンプ  
ルかつ論理的だったことが原因と思われる。ま  
ず、アシナガグモとオオシロカネグモの種間相  
互作用があると仮定して実験する。その結果種  
間相互作用がないとわかり、場所の好みが違う  
のではと考えて、また実験する。このときの実  
験は島の両側を流れる川の片方は日陰に片方は  
日向にして、クモを島に放し、どちら側の川に  
巣を張るか調べるといったシンプルな方法。す  
ごくわかりやすい。できることならまねしてみ  
たい研究スタイルだ。

今回の開催地は、日本最南端の県沖縄という  
ことで、採集に出かけられた方も多かったの  
ではないかと思う。私も鶴崎先生の採集に同行  
させてもらった。キノボリトカゲ、頭のでっかい



キノボリトカゲ

イモリ(シリケンイモリというらしい)、陸にい  
るこれまたでっかいヤドカリ・・・ザトウム

シもたくさんいた。沖縄は不思議な生き物がた  
くさんいてすごいところだった。(網を持って  
大喜びしている大人達もはたから見れば不思議  
な集団だったかもしれないが・・・)

楽しかった沖縄大会だが、一つ困ったことが  
あった。会場がとても寒かったこと。南国沖縄  
で、休憩の間中外のコンクリート上で暖まっ  
ても手が冷たいほど冷房をかけるのは、きっと体  
にも地球にも優しくないと思う。次回の加治木  
町大会では是非、考慮していただきたい。

(足達珠美)



## 同好会情報

日本には日本蜘蛛学会だけでなく、各地に同  
好会がある。ここでは、そこで行なわれる採集  
会や講演会、そこで発行される定期刊行物など  
の活動内容を紹介する。興味を持たれた方はぜ  
ひ入会して、行事などに参加されてはいかがだ  
ろうか。

三重クモ談話会(本部:太田定浩)

会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・  
合宿・例会などを年数回実施。

今年度の採集観察会は、飯南郡飯南町飯高町  
一帯にて実施。

2001年12月2日(日)

JR/近鉄松坂駅 午前9時集合。大雨以外は決  
行。参加希望者は事務局まで連絡のこと。

総会兼同定学習会、懇親会は、2002年2月  
16日(土)~17日(日)、津市において専門家  
を招いて実施の予定。詳細は後日連絡。

しのびぐも 28号(2001.3発行)

内容は、遊絲 8 号を参照のこと。

入会申し込み

〒515-0044 三重県松阪市久保町 1843-157

貝發憲治 (事務局)

Tel (Fax) 0598-29-6427

会費 年 1500 円

和歌山クモの会 (会長: 米田 宏)

会報「和歌山クモの会会報」を年 1 回発行。

総会・観察会を年 1 回開催。

和歌山クモの会会報 No.11(2001.5.25  
発行)

米田 宏: “ハリーポッターと秘密の部屋”  
の中の蜘蛛

新海 明: “1 本の糸が 2 本に” ジョロウグ  
モがみせた奇妙な行動



ジョロウグモ

福島彬人: 秋田の冬のクモ

須賀瑛文: 蜘蛛グッズつれづれ話

西浦昭人: クモとわたし

吉田 誠: クモと名のつく生き物たち

東條 清: 伝承遊びのコガネグモによるクモ  
合戦復活

東條 清: 和歌山クモの会総会と観察会報告

入会申し込み

〒642-0002 海南市日方 1156

東條 清 (事務局)

会費 年 1000 円 (2001 年度より)

東京蜘蛛談話会 (会長: 萱嶋 泉)

会報「KISHIDAIA」を年 2 回, 「談話会通信」  
を年 3 回発行. 採集会年 4 回・合宿年 1 回・総  
会例会などを年 2 回実施.

今年度の採集会は, 神奈川県横浜市円海山水  
取沢市民の森

2002 年 2 月 17 日 (日)

J R 根岸線港南台駅 午前 10 時集合  
世話人 安田明雄 (045-934-9210)

例会は,

2001 年 12 月 2 日 (日) 午前 10 時から, J  
R 橋本駅 (横浜線, 相模線) 京王線橋本駅下  
車 駅前のビブレ 6F ソレイユさがみ セ  
ミナールーム 2 にて.

KISHIDAIA 81 号 (2001.12 発行予定)

平松毅久: トガリアシナガグモの造網過程

平松毅久・新海 明: 西表島クモ観察記 (2)

新井浩司: ヤクシマキムラグモの生態

高橋 登: 20 世紀のクモの本追記

貞元己良: 極楽な合宿に参加して

新海 明: 斑鳩の法隆寺にクモを尋ねて

池田博明・谷川明男: 大和市におけるムナボシ  
ヒメグモ個体数の季節的変動

## DRAG LINES

池田博明：クロマルイソウロウグモがヒメグモ幼体を捕食

初芝伸吾：カニミジングモを捕食するコオニグモモドキ

新海 明：オオトリノフンダマシの交接行動

新海 明：オオトリノフンダマシの複数オスとの交接

谷川明男：鎌倉市にスズミグモ出現

新海 明・谷川明男：ツシマトリノフンダマシの卵のうの記録

### <目録ドラッグラインズ>

新海 明：京都府 京都市吉田山のクモ

新海 明：滋賀県 近江神宮のクモ

小野展嗣・水山栄子：上野公園のクモ類（第1報）

須賀瑛文・永井 均：文献による岐阜県産クモ類目録

熊田憲一：三重県で採集したクモ

今井正巳：東京蜘蛛談話会 2000 年度観察採集会報告 東京都立小山田緑地（町田市）のクモ

### 入会申し込み

〒229-0038

相模原市星が丘 1-5-5

今井正巳（事務局）

Tel 042-755-3086

会費 年 3800 円（学生 2000 円）

関西クモ研究会（会長：山野忠清）

会報「くものいと」を年 2 回発行．採集会・研究会例会などを年数回実施．

例会は，2001 年 12 月 23 日（日）に大阪市の四天王寺高校で実施．

くものいと 30 号（2001.9.15 発行）

特集 クモを飼う

吉田 真：アシナガグモを飼う

吉田 真：京都府のイソコモリグモ



イソコモリグモ

加村 隆 英：ワシグモを飼う

榎元ともこ：アリグモを飼う

渡部 健：ショウジョウバエの飼い方

榎元ともこ：コガネグモ「シマちゃん」～外飼いの記録・ちょっとだけ～

フィールド紹介

野 嶋 宏 一：アイチミジングモがいる淀川河川敷 [大阪府大阪市東淀川区豊里]

同定指南

加村 隆 英：ワシグモ科 Gnaphosidae（その 3）

海外の研究トレンド（4）

榎元 敏 也：クモ系のアミノ酸配列の進化クモリスト

吉田 真：京都府産クモ類目録

寄稿

船曳和代：姫路にもいたクロガケジグモ

吉田 真：水平円網を張るクモ 6 種の生態的分布

カルチャー

船曳和代：三朝温泉で見つけた美しいクモの  
切り絵

石井こうこ：とまどい=こんなクモ，み～つ  
けた=  
報告

榭元ともこ：国際クモ学会 in Africa  
会費納入のお願い/ちょこっとニュース

#### 入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel 0726-41-9555 (西川研)

0726-41-9550 (加村研)

Fax 0726-43-9432 (大学教務課)

会 費 年 1000 円

中部蜘蛛懇談会 (代表：緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回，「まどい」を年3  
回発行．採集会を年4回，合宿を年1回，総  
会・研究会を年1回実施．

採集観察会は，

11月3日(日)

愛知県瀬戸市定光寺一帯．定光寺山門前駐車  
場午前10時集合．

担当者 石井幸子 (052-771-8004)

総会・研究会は，2002年2月11日(月・  
建国記念日)に実施．

蜘蛛 (KUMO) 34号(2001.6.30発行)

Masuda K.: A New *Xystodesmid* Millipe  
des of the Genus *Xystodesmus* from  
Japan

益田和昌：愛知県額田町の倍足類

高橋 登：アルブレヒト フォン ローレッ

ツと日本のクモ

柴田良成：名古屋市千種区内におけるキシノ  
ウエトタテグモの分布調査

緒方清人・須賀瑛文：名古屋城庭園内のクモ  
類と多足類

須賀瑛文：ちょっと覗いたあちこちのクモ～  
1999年～

緒方清人：愛知県におけるコケオニグモとシ  
ノビグモの分布について

緒方清人：津具村白鳥山のクモ

永井 均：キノボリトタテグモ2令幼体の巢  
の形状について

徳本 洋：鹿児島県屋久島におけるジョロウ  
グモの垂直分布

板倉泰弘・近藤昭夫：スジアカハシリグモの  
生活史 : 生活環

#### 入会申し込み

〒444-0076 岡崎市井田町字荒居 47-6

板倉泰弘 (事務局)

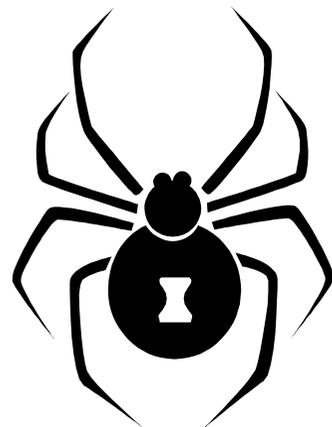
Tel 0564-28-5857

E-mail : yasuhi@heartful.or.jp

会 費 (2002年度より)

正会員 年3000円(高校生以下1000円)

準会員 「まどい」のみ1000円



## 関西クモゼミ

1~2ヶ月に1回、滋賀県草津市の立命館大学で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先

立命館大学理工学部生物工学科 吉田 真

077-561-2660

E-mail;myoshida@se.ritsumei.ac.jp

## 東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉縣市川市の加藤宅で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 0426-79-3728

(新海 明)



言ない!聞きたい!



山梨県でもスズミグモが採れていた

新海 明

関東地方でのスズミグモの分布の調査をしているが、現在まで山梨県からの記録はないと思っていた。ところが、最近になり山梨県在住の斎藤博さんから「山梨の昆虫」という会誌がおくられてきた。このなかに、なん

とスズミグモの採集情報があったのである。採集地は甲府市湯村山で1990年8月24日、2と記載されていた。私が知る範囲では、これが山梨県からの最初の採集記録である。文献名を以下に記しておく。

斎藤博 1992. 県内で採集した蜘蛛( )。山梨の昆虫(36): 944-953.

## クモで魚を釣る!

奈良県立医科大学 医学部

大崎茂芳

### 1. はじめに

クモに関わりはじめてから25年近く経った。その中で、主として、クモの糸に焦点を当てて研究を行ってきた。しかし、考えてみれば、ずっとクモの生態との付き合いでもあった。

クモの糸から様々なサイエンスを学んできたが、それらの一部については「クモの糸のミステリー(中公新書)」としてまとめた。また、クモのお陰で、様々な興味深いことも多々経験してきた。しかし、それらは、必ずしも容易なことばかりではなかったが、クモが使用される範囲が多々あることも判ってきた。ここでは、クモで魚を釣るという体験をしたことについて触れてみたい。

### 2. クモを魚の餌にしている釣具店を探す!

宝塚歌劇で知られている兵庫県の宝塚市に住んでいた頃の話である。ちょうど、私がクモの関わり始めてから数年以上も経った1982年4月のことである。自宅は小川沿いにある桜並木の近くにあり、また、比較の木々も多く、クモの研究には比較的恵まれた場所であった。そのため、フィールドでクモの観察や採集が容易にできた。ところが、その頃から私はクモに関す

ることであれば、どんなことでも興味を持つようになっていた。ある時、兵庫県と大阪府の境界を流れる猪名川で子供と一緒に釣りをしたことがあった。その時訪れた釣具店で、クモを餌として魚を釣っているところがあるとの情報を掴んだのである。

早速、どこでそのようなことをやっているのかを聞き出すために、京都府の亀岡市から大阪府の南部の岸和田市まで次から次へと釣具店を十件近く回った。その結果、2ヶ月がかりでやっと京都にそのような釣具店のあるらしいことを聞き出したのである。最初は、釣具店の名前もはっきりと判らなかつたために、電話で何軒か聞き出し、やっと突き止めることができた。それは、京都府宇治市の宇治川沿いにあるN釣具店であった。最初に探した亀岡市の釣具店とは距離的にも遠く、方角が全く異なっていた。確かめた電話で釣具店に連絡をとった。ところが、その時期でのクモを餌に用いた釣りは季節はずれであるとのことで、残念ながら諦めざるを得なかつた。情報を得て調べ始めてから数ヶ月も経っており、春も終わりの時期になってしまっていた。そのため、旬である翌年の冬まで待つことにした。

### 3. 宇治川に出向く！

待ちに待った時期がやってきた 翌年の1983年2月に連絡をとったところ、N釣具店の要請で、2月6日(日曜日)の朝の7時20分にN釣具店まで来て欲しいとのことであった。前日に手土産を用意して、当日の朝早く伺うことにした。宇治までは兵庫県の私の家からかなり遠い。そのために、朝の電車が走っているのかどうかは定かでなかつた。しかし、最寄の駅がちょうど始発電車の多いところであったため、5時40分に阪急電車のひばりが丘花屋敷駅を出

発することにした。当日は、非常に寒い朝で、まさに、冬そのものの冷え冷えした感じのする朝であった。寒さのためマフラーを首に巻いて、家から駅まで7分間歩いて雲雀丘花屋敷駅に到着した。阪急電車で梅田で降り、地下鉄に乗って、次に淀屋橋で京阪電車に乗り換えた。京阪電車では中書島で乗り換えて、平等院のある宇治市に向かうことになった。

N釣具店の最寄の駅に到着するまでは、電車の中ということもあって、少しは暖かくなっていたが、駅を降りるとまた、寒さが戻ってきたような感じであった。家を出発した時刻から2時間近く過ぎていたが、まだ、寒さは衰えていなかった。釣具店を探し当てて、改めて事情を説明した。釣具店の息子さんが、すぐに近くの畑に出向いてツチグモ(釣具店による)をとってきてくれた。彼の説明によると、通常は12月から2月の間に、寒バエを釣るためにいも畑で捕ってきたツチグモを餌として用いるという。ツチグモは脚を拡げて2cm程度の大きさのクモでイモのつるを食べるらしい。釣り針をクモの腹に刺すと汁が出るので、頭の方に針を刺して、脚の関節を中途からむしり取って餌として使うのである。そのクモを川のの水の中に入れると、クモの体に生えている毛の部分に空気の玉ができ、それが太陽の光で玉状に輝く。その姿で虫が来たものと思い、魚が寄ってくるとか、



また、生きているクモの匂いに近寄ってくると言われている。もちろん、毛虫やキシヤの虫も餌として使用される。

#### 4. クモでハエが釣れた！！

釣具店の息子とツチグモを持って一緒に宇治川に出向いた。しかし、その時刻になっても2月の冷たい風が吹いていた。ちょうど、宇治川大橋（観月橋）から1kmほど下流で、水の淀んでいるところにモーターボートで出向き、そこで釣ることになった。足も凍える程冷たい川に入り、ツチグモを餌にして釣りをした。しかし、最初の頃はいっこうに釣れなかった。そのため、釣具店の息子は少しあせりだした。こんな筈ではないということのようであった。そこで、釣具店の息子さんも必死になって場所を変えたり、いろいろ努力してくれた結果、次第にハエが釣れだした。これは、時間が経って、太陽が出てきたためなのかもしれない。

私にとっては、クモを餌に魚が釣れることを確認できただけでも成功であった。この手法は、クモが餌として有効なのか、あるいは、太陽の光でクモが輝くために餌と感ずるのかどちらかは知るすべも無かったが、私としては、やっとクモで魚が釣れたことを確認できたという満足感を味わい、宇治川を後にした。

N 釣具店によると、魚釣り用の餌としては石の下にいる瀬虫（せむし）を使うが、川が深いと瀬虫がとれないので、クモを使うという。1匹の瀬虫では数匹の魚が釣れるらしいが、1匹のクモでは1匹の魚しか釣れないらしい。クモで魚を釣る名人によれば、半日で50匹近くは釣り上げるらしい。最近では、釣り人の考案したネリエサを使うようになってきたりして、釣り方も変わってきた。しかし、地元の人の中には、今でもクモを餌にハエを釣っているという。

## 採集情報

日本各地で採集された、稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

### ムツトガイセキグモ

東京都八王子市八王子みなみ野町法華寺 2001年6月9日 幼1 貞元己良  
埼玉県比企郡滑川町羽尾 2001年6月18日 幼体1 平松毅久  
愛知県岡崎市音羽町長沢 2001年7月22日 幼体1, 成体1 杉山時雄  
東京都あきる野市五日市町広徳寺 2001年8月9日 □幼1 新海 明

### ツシマトリノフンダマシ

愛知県岡崎市音羽町 2001年7月28日 □  
成体1 杉山時雄

### カトウツケオグモ

愛知県豊田市勘八町 2001年8月14日  
成体1 大原満枝  
福井県敦賀市中池見湿地 2001年9月12日 成体1 真野 徹

### シノビグモ

栃木県塩原町 2001年8月5日 垂成  
体1 幼体2 新海栄一

### スズミグモ

神奈川県横浜市港南区円海山 2001年7月8日 網 貞元己良他

東京都あきる野市戸倉城山 2001年8月1  
9日 成体1 安藤昭久  
東京都渋谷区明治神宮 2001年8月12日  
網のみ1 安藤昭久  
東京都八王子市滝山自然公園 2001年8月  
5日 成体3・網6 安藤昭久

### シロゴミグモ

神奈川県横浜市港南区円海山 2001年10月  
14日 幼体1 八幡明彦  
(新海 明)



### 「いとゆう」・・・

#### 秋田在住の福島彬人さんの個人誌

漢字で書くと「糸遊」。1995年の第1号の発行から毎月1回ずつ回を重ねて、今年の10月で第82号になるという。すごいものである。「長い間つき合ってきた物言わぬ蜘蛛たちの代弁者として、蜘蛛と人との関係や民俗、また私の大好きな山と自然の不思議などについて肩の凝らない話をしてみたいと思う。常に口下手で寡黙な私だが、皆さんのもとにお伺いして、よもやま話をするような軽い気持ちでこの通信文をお届けしたい」とは第1号の「蜘蛛逍遥」中の弁である。特に、東北秋田地方の民俗伝承に関する記事は同好の士にとって垂涎のものとなるに違いない。近年は「蜘蛛曼陀羅」「野帳余聞」「秋田きつね風土記」「みちのく奇譚」という構成でまとめられている。そのどこにもクモを代表とする生きものに対する福島さんのあ

たかい眼差しが感じられる。さらに、氏の経歴からくるものが、その幅広い古典文化芸術についての素養は、「いとゆう」の読者をしてきつとうならしめるに相違ない。興味をもたれた方は、直接ご本人までご連絡をとられたらいかがだろうか。

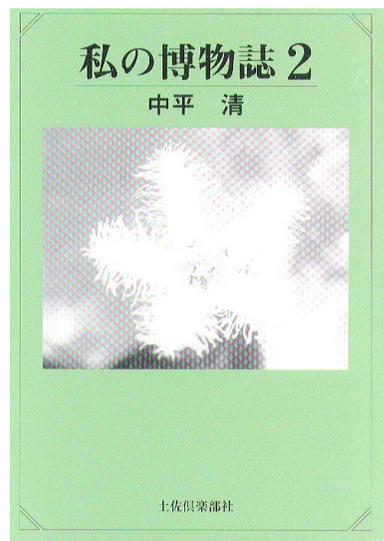
(新海 明)

### 「私の博物誌2」

中平 清著(土佐倶楽部社)

2001.9.15 発行

1999年3月に発行された「私の博物誌」の続編である。前回と同じく著者の長年にわたる植物や動物の観察記録、そして、それらの生き物を通して自然への想いが語られたエッセー集である。クモに関する項目としては「里山のジョロウグモ」「スズミグモの不思議」の2編が収められている。後者にはスズミグモがある場所で突然多数出現し、急に消えてしまうという発消長についての疑問が投げ掛けられている。このような現象があることは、各地でよく耳にするのだが、記録として残されている例をあまり知らない。



我々アマチュアが意識してなすべき大切な仕事のひとつであろう。

非売品なので、購入希望者は直接著者に問い合わせのこと。

(新海 明)

### 最近気がついた分類関係の文献

最近発表された日本のクモの分類に関連のある論文をいくつか簡単に紹介する。

: Irie T. & Ono, H. 2000. A new species of the genus *Cybaeus* (Araneae: Cybaeidae) found in limestone and tuff caves of Central Kyusyu, Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, ser.A, 26:173-177.

*Cybaeus higoensis* Irie & Ono 2000 ヒゴナミハグモを新種として記載した。

: 松田まゆみ 2000. 北海道に生息する北方系の2種のサラグモ。上士幌町ひがし大雪博物館研究報告, 23:33-37. *Walckenaeria karpinskii* (O. P.-Cambridge 1873) ホッポウツノヌカグモと *Walckenaeria korobeinikovi* Esyunin & Efimik 1996 シベリアツノヌカグモを日本新記録として報告した。

: Haupt, J. & Shimojana M. 2000. The spider fauna of soil banks: The genus *Latouchia* (Arachnida, Araneae, Ctenizidae) in Southern Japan and Taiwan. Mitt. Mus. Nat. kd. Berl., Zool. Reihe, 77:95-110.

オキナワトタテグモを *Laouchia swinhoei swinhoei* Pocock 1901 に、キシノウエトタテグモを *Latouchia swinhoei typica* Kishida 1913 に位置づけ、*Latouchia swinhoei izena* Haupt & Shimojana 2001 イゼナトタテグモ、*Latouchia swinhoei kerama* Haupt & Shimojana 2001 ケラマトタテグモ、*Latouchia swinhoei tonaki* Haupt &

Shimojana 2001 トナキトタテグモ、*Latouchia swinhoei kume* Haupt & Shimojana 2001 クメトタテグモ、*Latouchia swinhoei xena* Haupt & Shimojana 2001 アマミトタテグモ、*Latouchia swinhoei crypta* Haupt & Shimojana 2001 シロヤマトタテグモ *Latouchia parameleomene* Haupt & Shimojana 2001 シマトタテグモ、*Latouchia formosensis hyla* Haupt & Shimojana 2001 ヤエヤマトタテグモ 8 新亜種を記載した。

: Irie, T. & Ono H. 2001. Two new species of the genus *Cybaeus* (Araneae: Cybaeidae) from Kyushu, Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 27:205-210. *Cybaeus kumaensis* Irie & Ono 2001 クマナミハグモと *Cybaeus taraensis* Irie & Ono 2001 タラ

ナミハグモを新種として記載した。

: Ono, H. & Saito, H. 2001. New species of the family Linyphiidae (Arachnida, Araneae) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A, 27:159-203.

*Hylyphantes tanikawai* Ono & H.Saito 2001 イリオモテナンキングモ、*Asperthorax borealis* Ono & H.Saito 2001 キタザラアカムネグモ、*Nippononeta kantonis* Ono & H.Saito 2001 カントウケシグモ、*Nippononeta kaiensis* Ono & H.Saito 2001 カイケシグモ、*Nippononeta masudai* Ono & H.Saito 2001 ダイボサツケシグモ、*Nippononeta alpina* Ono & H.Saito 2001 ミヤマニッポンケシグモ、*Nippononeta ogatai* Ono & H.Saito 2001 オガタニッポンケシグモ、*Nippononeta xiphoidea* Ono & H.Saito 2001 ホウライケシグモ、*Nippononeta elongata* Ono & H.Saito 2001 ミチノクケシグモ、*Nippononeta silvicola* Ono & H.Saito 2001 モリニッポンケ

シグモ, *Nipponopneta subnigra* Ono & H.Saito 2001 アマリケシグモ, *Nippononeta okumae* Ono & H.Saito 2001 オオクマニツボンシグモ, *Nippononeta masatakana* Ono & H.Saito 2001 イオウジマケシグモ, *Arcuphantes awanus* Ono & H.Saito 2001 アワミサラグモ, *Arcuphantes elephantis* Ono & H.Saito 2001 トクシマヤミサラグモ, *Arcuphantes concheus* Ono & H.Saito 2001 ナガトヤミサラグモ, *Arcuphantes rostratus* Ono & H.Saito 2001 トゴウチャミサラグモ, *Arcuphantes hastatus* Ono & H.Saito 2001 イトイヤミサラグモ, *Arcuphantes saragaminensis* Ono & H.Saito 2001 サラガミネヤミサラグモ, *Arcuphantes tsushmanus* Ono & H.Saito 2001 ツシマヤミサラグモを新種として記載した。

: Yoshida, H. 2001. Two new species of the genera *chryso* and *Achaearanea* (Araneae: Theridiidae) from the Nansei Islands, Japan. *Acta Arachnol.*, 50:11-14.

*Chryso sasakii* Yoshida 2001 オキナワホシミドリヒメグモと *Achaearanea projectivulva* Yoshida 2001 トガリヒメグモを新種として記載した。



オキナワホシミドリヒメグモ

: Yoshida, H. 2001. The spider genera *Robertus*, *Enoplognatha*, *Steatoda* and *Crustulina* (Araneae: Theridiidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 50:31-48.  
*Robertus yasudai* Yoshida 2001 ヤスダモリヒメグモを新種として記載, *Enoplognatha lordosa* Zhu & Song 1992 コガタコノハグモを日本新記録として報告, カガリグモを *Enoplognatha* へ転属し, *Enoplognatha abrupta* (Karsch 1879)カレハヒメグモとし, ヌカアブラグモを *Clubiona* に転属し, *Clubiona parvula* (S.Saito 1933)ヌカアブラフクログモとした. *Enoplognatha japonica* Bösenberg & Strand 1906 ヤマトコノハグモ, *E. dorsinotata* Bösenberg & Strand 1906 セマダラコノハグモ, *Steatoda albimaculosa* (S.Saito 1934) ブチモチイグモを *Enoplognatha tecta* (Keyserling 1884)の新参シノニムとし, 和名にはヤマトコノハグモを残した. *Enoplognatha transversifoveata* (Bösenberg & Strand 1906)を *E. abrupta* (Karsch 1879)カレハヒメグモの新参シノニムとした。

: Kamura, T. 2001. Seven species of the families Liocranidae and Corinnidae (Araneae) from Japan and Taiwan. *Acta Arachnol.*, 50:49-61. *Phrurolithus vulpes* Kamura 2001 コガネウラシマグモを新種として記載し, *Phrurolithus sinicus* Zhu & Mei 1982 コツブウラシマグモ, *Phrurolithus taiwanicus* Hayashi & Yoshida 1993 タイワンウラシマグモ, *Phrurolithus labialis* Paik 1991 ウスイロウラシマグモ, *Corinna gulosa* (Thorell 1878)ハマカゼハチグモを日本新記録として報告した。

: Tanikawa, A. 2001. Twelve new species

and one newly recorded species of the spider genus *Araneus* (Araneae: Araneidae) from Japan. *Acta Arachnol.*, 50:63-86.

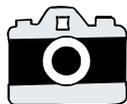
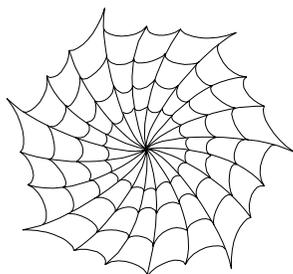
*Araneus nojimai* Tanikawa 2001 マメオニグモ, *Araneus tsurusakii* Tanikawa 2001 カラオニグモ, *Araneus ryukyuanus* Tanikawa 2001 リュウキュウオニグモ, *Araneus borealis* Tanikawa 2001 キタマメオニグモ, *Araneus iriomotensis* Tanikawa 2001 イリオモテオニグモ, *Araneus yasudai* Tanikawa 2001 ヤスダヒメオニグモ, *Araneus hoshi* Tanikawa 2001 ホシマメオニグモ, *Araneus komi* Tanikawa 2001 コミオニグモ, *Araneus ogatai* Tanikawa 2001 オガタオニグモ, *Araneus miyashitai* Tanikawa 2001 コケオニグモ *Araneus mayumiae* Tanikawa 2001 マユミオニグモ, *Araneus amabilis* Tanikawa 2001 チュラオニグモを新種として記載し, *Araneus acusisetus* Zhu & Song 1994 オオクマヤミロオニグモを日本新記録として報告した.

: Tanikawa, A. 2001. Two new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnol.*, 50:87-89.

*Cyrtarachne induta* Yaginuma 1960 ソメワケトリノフンダマシを *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand 1918 アカイロトリノフンダマシの, *Cyrtarachne nigra* Yaginuma 1960 クロトリノフンダマシを *Cyrtarachne nagasakiensis*

Strand 1918 シロオビトリノフンダマシのそれぞれ新参シノニムとした.

(谷川明男)



## ギャラリー



エクアドルで見つけたザトウムシの一種  
背面の模様が面白い．一番前方の黒斑が眼である．  
(谷川明男)



## 遊絲 7, 8 号会計報告 (2000.8 ~ 2001.7)

収入	
寄付	76986 円
学会補助	5240 円
繰越金	5514 円
<b>合計</b>	<b>87740 円</b>
支出	
遊絲 7 号送料	23490 円
遊絲 8 号送料	23580 円
紙 / 封筒 / プリントターナー	35700 円
小計	82770 円
次号繰越金	4970 円
<b>合計</b>	<b>87740 円</b>

## 編集後記

今回はじめて「遊絲」の「懐具合」の話を見せてもらう。周知のように「遊絲」は学会の会計事情がきわめて悪かった1997年に発刊した。寄付金袋を夏の大会会場でまわして、それを運営資金としてきた。当初はほぼこの際に集まった資金で運営可能だったが、年を経るごとに集金状況は悪化し、最近では各地方の総会・例会でも寄付金を募りなんとか運営を維持しているのが現状である。無論「自腹をきってでもやる」という覚悟で編集してはいるものの、最近の学会の収支決算を見るかぎりでは補助金の増額も可能のように思える。そこで、今年度からは補助金の増額を検討してもらうことになった。これで、学会大会で寄付していただいた上に、各地の総会でもまた同じ方々にご迷惑をかけるということがなくなるだろうと少し安心している。これからも、会員の声援に応えられるようにさらなる紙面の充実を計っていきたい。ご協力の程を重ねてお願いする次第である。

(新海 明)

原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mailではdp7a-tknw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男)まで

発行は、年2回(5月, 11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

## 日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

305-8604 つくば市観音台 3-1-3

農業環境技術研究所昆虫グループ内

田中幸一

Tel 0298-38-8253 (Fax 0298-38-8199)

E-mail: tanaka@nias.affrc.go.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

170-0004 豊島区北大塚 3-12-21

笹岡文雄

E-mail: spyd@biglobe.ne.jp

Tel 03-3918-1945

年会費 正会員 7000円(学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

ホームページ: <http://www.asahi-net.or.jp/~hi2h-ikd/asjapan/index.htm>



---

---

遊絲 第9号

2001年11月25日発行

編集者 新海 明，谷川明男，池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 吉田 真

---

---